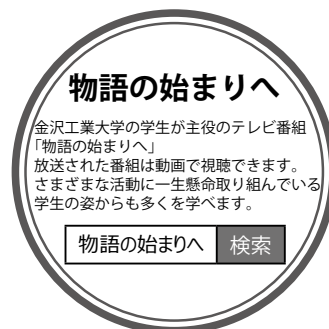


教育の特色

金沢工業大学の教育目標は、「自ら考え行動する技術者の育成」です。

この目標を達成するために授業や課外活動を通じて実社会の課題にチームで取り組み、アイデアの創出から具体化するまでのプロセスを常に意識し、自らが考える習慣を徹底的に学ぶ教育を実践します。

学生は、「何のために」、「何を学ぶのか」という自覚と目的を明確に持ち、日々研鑽に努める必要があります。そのために、教職員はどれだけ学生が学修して、技術者の素養となる基礎力を身につけたか、いかに学びつづける姿勢が見られるかを注視し、学生の学びを支援するため次のような教育に取り組みます。



教育付加価値日本一を目指す取り組み

本学が最も重視することは、入学した学生の「力」を引き出し、「学力（基礎力と専門力）」ならびに「人間力（社会で活躍することのできる力）」を高め、「学力×人間力＝総合力」を最大限に成長させることです。この「総合力」を涵養するため、正課教育（授業）と正課外教育（課外活動）の相乗的な学修の実現を目指した教育システムを展開します。これにより、学生は、正課教育ではチームで問題を発見・解決に取り組む教育を主としたカリキュラムのもとで学修し、正課外教育では正課教育で学修した知識・スキルを統合して実社会が抱える問題の解決に取り組むことで、学生が「自ら考え行動する技術者」としての素養を身につけることを目指しています。

本学では、学びに対して真摯な学生の向学心を一層奮い立たせるような環境・支援体制の整備に積極的に取り組むことで、「教育付加価値日本一」を目指しています。

チームラーニングの推進

アクティブ・ラーニングを前提としたチームラーニングでは、他者を尊重し協力し合うことが重要です。学びの過程で知識の修得だけでなく他者との協働で人間力も養われます。

本学では、正課外においても学生同士で教え合い・学び合い、議論し、ものをつくり、実験できる環境（ラーニング・コモンズ）で学生が主役となって教職員と共に学びを深めることができます。

学生のみなさんには、こうした環境で学力と人間力を互いに高め合える学びの輪を主体的に創り出し、他の学生や教職員との協働しつつも、ときとしてリーダーシップを発揮することが求められています。

TA・SAの活躍

本学には、学生の学内勤務制度「教育補助員（大学院生：TA・学部生：SA）」を設定しています。TA・SAは、その名の通り、教員を補佐する役割を担います。正課において、教員側の立場で履修学生からの質問に答えるのみならず、ときには教員と共に授業の方針について話し合うこともあります。この制度の中でも、特にアクティブ・ラーニングの輪の中心で活躍を期待されているのが「シニアTA・SA」です。

シニアTA・SAは正課の授業内容について、正課内・外で学生の質問に解説・指導を行うことで、学習のサポートを行います。内容を理解した学生が、十分な理解に達していない学生に教えることで、授業内容を理解した学生を増やし、さらに他の学生に繋ぐ「教え合いの連鎖」を創りだしています。

また、シニアTA・SAが解説・指導した内容は、教員にもフィードバックされ、学生の視点、意見を取り入れることにより、授業の改善が図られています。